

# 「ホームランブック」というキーワードを用いた 多読行動を促進する指導の試み

山中純子  
種村俊介

## 1. はじめに

日本の英語教育の授業で行われる読みの指導は、精読が主流ではあるが、多読の指導実践は増え、その成果も発表されるようになってきた（門田・野呂，2004，p. 339）。2003年から2008年の間に、多読を実践する学校数は、急速に増加傾向を示している（高瀬，2010，pp. 13-16）。Mason（2009，p. 246）によると英語の多読とは「インプット理論（Krashen，1985）が提案する、理解できる英語を大量に学生の脳にインプットするという言語習得方法」の一つであり、山下（2004，p. 23-24）によれば Day and Bamford（1998）の「成功した多読プログラム」の10の特徴の内、「学習者が自分の言語能力のレベルにあった多量の英文を楽しみながら読む」という指導が、多読指導の本質的で、最も重要な点である。

楽しみながら多量に外国語を読むことで、学習者は、外国語の読解力を容易かつ効果的に向上させられる（Nuttal，2005，p. 127）と言われるが、その効果は、読解分野のみならず多方面に及ぶ。例えば Yamashita（2013）では、先行研究が挙げる多読の効果を reading comprehension、reading rate、vocabulary、grammar、writing、general L2 proficiency、affective domain of reading と7分野に分類している。

様々な多読の効果の報告と多読実践が増加している現状を考えると、多読をさらに推進するために学習者が意欲的に取り組める指導法の開発が必要であろう。そこで筆者らが注目したのが、母語での読書を促進するとされる「ホームランブック」との出会いの経験である。

## 2. 実践研究の背景

母語による読書において、「1回のとても肯定的な読書体験：ホームランブックとの出会い」が、子どもを読書好きにするという主張があり（Trelease，2001）、この主張を支持する研究結果も報告されている（Sprecken，Kim & Krashen，2000；Kim & Krashen，

2000)。確かに、筆者ら自身の読書経験を振り返ってみても、特別な1冊の本との出会いを通して、読書が好きになり、その後の読書生活が豊かなものになった。

この現象は、母語での読書に限らず、第二言語の読書においても当てはまると思われる。Nuttall (2005, p. 130) は、外国語での読書習慣を発展させるためには、おもしろい図書と出会い、読書を楽しむ経験を積むことが何より重要なであると述べている。また、Day and Bamford (1998, pp. 28-29) は、L2リーディングを動機づける4つの変数の内、materials と attitudes が最も重要な変数であるとし、図書が学習者にとっていかにおもしろいものであるかということが多読にとって非常に大切であることを示唆している。加えて、深田 (2009) は英語の多読で100万語を読破し、英語による読書を自律的に行えるようになった日本人英語学習者(高専生)への調査によって、多読の継続を可能にする最も強力な二要因の内の第一として、「読書の楽しさ」を挙げ、「気に入った本との出会い」が鍵であると結論づけている。

著者らは、これまで様々な学校の授業で多読指導を行ってきたが、学習者が心からおもしろいと感じられる図書と出会うことで、多読活動により意欲的に取り組む様子を数多く見てきた。一方で、学習者の間に英文の読書に対する抵抗感があることも観察してきた。英文読書は苦痛であって、おもしろいと感じる本などありえない、と思っている学習者も少なくない。そのような学習者に、英文の本にも易しく読めて母語と同じように感動したり、心から楽しんだりできるものがあることを知ってほしい、という願いから、「ホームランブック」というキーワードを用いた指導を行うことを思いついた。この語を用いることによって、英文図書にもホームランと感じる本が存在するのだということに気づかせることができる。そして学習者は授業を通してホームランブックに出会える機会を持ち、英語の読書の楽しさを実感し、その結果、多読行動が促進されるのではないかと考えた。さらには、ホームランブックに出会いたい、肯定的な英語の読書経験を得たいという動機づけが学習者の中に生まれ、クラス全体の多読に対する意欲が高まるのではないかと考えた。

そこで、本実践研究では、「ホームランブック」というキーワードを用いた多読指導を通して、とても肯定的な読書体験、「ホームランブックとの出会い」を得ることを重視した多読指導を行うことで、多読行動が促進されるかを探ることにした。

### 3. 実践研究

#### 3.1 実践研究課題

第一筆者が、大学生を対象にした多読授業において、自分の言語レベルに合った易しい英文の読書を通して、「とても肯定的な読書体験」を得ることが多読活動の大切な目的の一つであると学習者に伝え、「ホームランブック」というキーワードを用いた指導を行った。「ホームランブック」とは、「ホームランを打ったときのような気持ちになるとびきりおもしろい本」であると説明した。多読の読書量(読語数と読頁数)を調査す

ると共に、本実践研究において、以下のリサーチクエスチョンを調査することにした。

- (1) 参加者は、ホームランブックに出会えるか
- (2) 参加者のホームランブックとの出会いの数と、学習者の多読行動には関連があるか
- (3) 参加者は、どのように多読図書（読む本）を選ぶか
- (4) 参加者は、どのような効果を実感できるか

さらに付随的な課題として、上述の通り、山下（2004）が多読指導の本質で、最も重要な点として挙げた「楽しみながら」、「レベルに合った」本による読書が行えるかについても調査する。さらに、本実践研究の指導により、「レベルに合ったおもしろい図書を見つけることができるようになり、おもしろい図書の情報をクラスメートと共有できるようになるか」についても、参加者に尋ねることにする。

### 3.2 実践研究参加者と実践研究が行われた授業科目の概要

東海地方の私立大学の2014と2015年度の春学期と秋学期に開講された「Extensive Reading」という英語専攻3年生対象の科目を受講した学生57名（30名と27名）が本実践研究に参加した。参加者は、春・秋学期（各15週）の計30週授業内外で多読を行った。彼らは、1・2年次においても多読科目を受講しており、2年間の多読経験を有していた。英語を専攻している学生達であるため、多くの学生が英語学習に対する意欲が高く、授業にも積極的な姿勢で臨んでいた。英語力は、TOEICのスコアが約550点から800点程度（クラスの平均が約650点）の学生達であった。

### 3.3 多読図書

本実践用には、図書館の多読図書と教師が毎回の授業に用意した多読図書を用いた。図書館には、英語母語話者の児童・小学生のための英語習得用段階別絵本・学習絵本であるLeveled Readersと非英語母語話者の英語学習者のために語彙・文法・構文が段階的に制限されたGraded Readersが合計約2000タイトル、6,000冊設置されていた。教師が用意した図書は同じくLeveled ReadersとGraded Readers約120冊で、教師自ら読んでおもしろいと実感したものを選んだ。

### 3.4 多読オリエンテーション

春学期の初回の授業で、多読のガイダンスを行った。ガイダンスでは、(1)多読の目的、(2)多読の効果、(3)多読の方法、(4)多読を続けるための読み方、(5)目標読語数と読書時間、(6)多読行動の記録の仕方、(7)本実践での多読のルールと注意事項などを伝えた。そしてなによりも読書を楽しむことが最も大切であると強調した。おもしろい本を見つけることが肝心で、「ホームランブックとの出会い」を願っていると述べた。すなわち「ホームランを打った時のような気持ちになる、とても肯定的な読書体験」をすると、読みたい気持ちが強くなって大量の読書の達成につながると伝えた。

### 3.5 授業の構成

毎回の授業は、以下の通り、各30分の3パートから構成された。第一パートは、テキスト Cover to Cover (Day and Yamanaka, 2007) 中の記事文や Graded readers (Oxford Bookworms) からの抜粋を読み、ワークシートの記入やペアで感想や意見交換を行った。第二パートは、「おもしろい本の情報を得る時間」とし、読者評価の高い本について知る機会を提供した。第三パートは、図書館で借りている本または教員持ち込みの本を用いて Sustained Silent Reading (以降 SSR と表記) を行った。本実践での「ホームランブック」というキーワードを用いた指導は、第二パートで行われた。その詳細は、次の通りである。

第二パートの「おもしろい本の情報を得る時間」では、(1) クラスメートのホームランブック、およびホームランではないが予想以上におもしろかった本 (Big Jump Books) の紹介、(2) 先輩のホームランブック、および Big Jump Books の紹介 (3) Extensive Reading Foundation による学習者文学賞受賞作品の紹介を行った。それらは教師が図書リストを作成して配布したり、口頭で出版社名、レベル、タイトルを読み上げたり、実物を見せたりして、情報を提供する方法であった。さらに (4) ペアで、読んできた本を紹介しあう活動、(5) 教師のホームランブックやおすすめ本の紹介を行った。(1)(4) は毎回の授業で行い、それ以外は、参加者の多読状況を考慮しつつ、幾つかを組み合わせながら、数回に分けて、行った。

### 3.6 課題と提出物

本実践では、授業内外で図書館の多読用図書を週に1冊以上借りて授業内外で読むことが課題とされた。よって、参加者は、最低各学期に15冊以上の多読図書を授業内外で読むことになる。また、授業内外で読んだ多読図書に関する読書記録を提出することが課された。読書記録は、(1) Book Report / In Class Book Report (資料1)、(2) Weekly Report (資料2)、(3) Book Report Record Sheet (資料3) の3種類であった。(1) は1冊授業内外で読む毎に、記入し、毎回の授業時に提出させた。(2) は毎週授業内で記入させ、提出させた。教師は回収したすべての Weekly Report に目を通し、必要に応じてコメントを書き、押印して次の授業で返却した。(3) は1冊読む毎に記入させ、学期末に提出させた。また、(1) と (3) には、本の評価を記入する欄を設け、「5. Homerun! 4. Great! 3. Good 2. OK 1. Boring」の5段階から、1冊毎に図書を評価させた。

### 3.7 調査方法

上述の読書記録のデータを集積し、30週の累積の読語数、読冊数、本の5段階評価から分析を行った。記述統計量及び積率相関係数の算出、t検定などには、IBM SPSS Statistics 22 を用いた。加えて、学期末のフィードバックシートよりリサーチクエスチョンに関連する質問項目に対する回答やホームランブックに言及した記述を集め、分析を

行った。

#### 4. 結果と考察

初めに、参加者の読書量を示す。読語数と読冊数の平均、最大と最小値を表1に示した。読語数は、平均で約28万語、読冊数は約47冊であった。前述のとおり、週1冊以上図書館の本を借りて授業内外で読むという課題が課されていたが、ほとんどの参加者が1冊以上の図書を借り、読書することができたことが示された。さらに読語数については、中高6年間の英語の平均的教科書の総単語数である約3万語（高瀬，2010）と比べると、最多がその約35倍の1087505語、最少でも約7倍の205118語であった。英語を専攻し、英語学習に対して意欲的であり、2年間の多読経験を有する参加者たちであったことを考慮しても、非常に多くの英語を読むことができたと言える。

表1 読書量の記述統計量 (N=57)

読書量	M	Max	Min	SD
読語数	289632.44	1087505	205118	125630.19
読冊数	46.84	89	27	13.24

続いて、リサーチクエスション(1)について調べるために、Book Report/In Class Book Report(資料1)とBook Report Record Sheet(資料3)に記録された図書評価の記述統計量を算出した。その結果を表2に示す。表2が示すとおり、平均で4冊程度のホームランブックに出会えたことがわかった。最多は43冊、最少が0冊であった。また、全体的に見て、図書に対して、好意的な評価をしていることが示され、ホームランではないけれども、Greatと評価できる図書にもっとも多く出会っていることがわかった。さらに、Goodと評価された図書がGreatに続いて多く、OKとBoringの評価だった図書は非常に少なく、楽しい本を多く読めたことが窺えた。

表2 図書評価の記述統計量 (N=57)

評価	M	Max	Min	SD
HR	4.28	43	0	7.67
Great	21.34	54	1	10.27
Good	18.26	42	1	9.35
OK	2.86	13	0	3.22
Boring	0.21	3	0	0.62

次に、ホームランブックに出会えた学習者の分布を見てみる。表3の度数分布表が示す通り、75.4%の参加者がホームランブックに出会えたことがわかった。その内、1冊と2冊がそれぞれ17.5%と最も度数が多い冊数であった。また、参加者の約40%が3冊以上のホームランブックに出会っており、多くの学習者が、本実践の多読を通して、多くのホームランブックと出会うことができ、本実践の指導がホームランブックとの出

会いをもたらしたことを示している。一方で、1冊も出会えなかった参加者の割合は25%であった。この結果は、今後指導法を改善し、より多くの参加者がホームランブックに出会えるように努める必要があることを示した。

表3 ホームランブックに出会えた学習者の度数分布表 (N=57)

冊数	度数	パーセント
0	14	24.6
1	10	17.5
2	10	17.5
3	4	7.0
4	5	8.8
5	3	5.3
6	1	1.8
7	2	3.5
8	1	1.8
9	3	5.3
13	1	1.8
22	1	1.8
34	1	1.8
43	1	1.8
合計	57	100.0

続いて、多読行動（読語数と読冊数）とホームランブックの出会いを学期ごとに調べた。その結果を、表4に示す。春学期の多読行動とホームランブック数を、それぞれ秋学期の多読行動とホームランブック数と比べると、読語数は秋学期の方が約1万語増加し、ホームランブック数については0.6冊と僅かながら増えていることがわかった。一方で読冊数については、春学期の方が若干ではあるが多かった。春と秋の読語数と読冊数及びホームランブック数の平均値の差を、対応ありのt検定で検討したが、有意な差は確認されなかった。読語数については、統計学的に有意差は認められなかったが、平

表4 春学期と秋学期の読書行動と読書評価 (N=57)

	読語数	読冊数	ホームラン	Great	Good	OK	Boring	
春	M	140554.53	23.74	2.01	10.25	9.83	1.44	0.53
	Max	500280	42	20	27	30	8	1
	Min	100140	12	0	0	1	0	0
	SD	56965.68	6.99	3.45	5.34	5.70	1.82	0.23
秋	M	149077.91	23.10	2.21	10.98	8.44	1.42	0.21
	Max	587225	56	28	28	19	10	3
	Min	81715	14	0	0	0	0	0
	SD	72637.27	7.34	4.84	6.67	4.80	1.99	0.62



均値と最高値がわずかに増えており、一定の増加傾向が見られると解釈でき、参加者たちは、統計的には有意とは言えないが、春学期よりも秋学期の方が多くの読語数を読めたことが窺えた。

次に、リサーチクエスションの(2)を調べるために、ホームランブックの冊数と多読行動との関連を検証した。具体的には、年間を通して出会ったホームランブック数と、年間の読語数及び読冊数とのピアソンの積率相関係数を算出した。合わせて、比較のために、Great、Good、OK、Boringと評価した冊数との相関係数も表5に示す。

表5 読書行動（読語数と読冊数）と図書評価冊数との相関係数（N=57）

	Homerun	Great	Good	OK	Boring
読語数	.61**	.14	.16	-.16	-.16
読冊数	.62**	.58*	.29	.02	-.27*

\*\*p<.01, \*p<.05

表5が示す通り、ホームランブック数と読語数及び読冊数にはそれぞれ有意な正の相関関係が見られ、ホームランブックに多く出会った参加者は、読語数と読冊数ともに多いことが示唆された。さらに、Boringと読書冊数が負の相関関係が見られたことから、Boringと評価した冊数が少ないほど、より多くの図書を読んでいることが窺われた。これらの結果は、多読中に、ホームランブックに多く出会うことによって、多読行動が促進されること、さらには、退屈な図書に出会うことが少なかった参加者ほど、より多くの冊数を読んだことを示唆し、非常に肯定的な読書経験を得ることが多読行動の促進に貢献する可能性が示唆されたと考えられる。

しかしながら、以上のような有意な正の相関関係が確認されたからと言って、ホームランブックやおもしろい本との出会いが多読行動を促進したとは結論づけられない。多読を意欲的に行ったから、結果的にホームランブックに多く出会えたという見方も可能だからである。

そこで、春学期のホームランブックやおもしろい本との出会いの数が、秋学期の多読行動といかに関連するかを検証した。春学期のHomerun、Great、Good、OK、Boring数との秋学期の読語数と読冊数の相関係数を表6に示す。

表6 春学期の図書評価冊数と秋学期の読書行動（読語数と読冊数）との相関係数（N=57）

	Homerun	Great	Good	OK	Boring
読語数	.25	.10	.06	-.13	-.11
読冊数	.51**	.42**	.18	-.00	-.22

\*\*p<.01

表6が示すように、春学期にホームランブックと評価した冊数と秋学期の読語数には相関関係が見られなかったが、読冊数との間には、有意な正の相関関係が確認された。加えて、春学期にGreatと評価した冊数と秋学期の読冊数との間にも有意な正の相関関係

係が確認された。以上の結果は、春学期にホームランブックやおもしろい図書との出会いが多い参加者ほど読冊数が有意に多いことを示していると言える。したがって、春学期におけるホームランブックやおもしろい本に出会うという肯定的な読書体験が、秋学期の多読行動を促進することを示唆していると言えそうである。

以上の結果は、ホームランブックやおもしろい図書との出会いの経験がより読書行動を促進することを示唆しており、母語での読書の知見；ホームランブックとの出会いがその後の読書行動を促進する、が外国語（英語）の読書においても当てはまる可能性があることを示していると考えられる。

続いて、リサーチクエストの(3)を探るために、学期終了時ごとに行ったふりかえりシートの「良い本を見つけるためにどんな方法を取りましたか」という質問項目に対する記述による答えを、カテゴリー毎に分け、表7に、回答が多かった順に示した。尚、カテゴリーに分ける際には、例えば、「先生や友人に聞いた」という回答は、「友人に聞いた」と「先生から聞いた」の回答数にそれぞれ「1」を加えカウントした。

表7 良い本を見つけるために行った方法

数(春・秋)*	方 法	数(春・秋)*	方 法
39 (20,19)	友人に聞いた	2 (1,1)	好きなジャンルの本を読んだ
24 (9,15)	先生から聞いた	2 (1,1)	好きな出版社の本を読んだ
19 (11,8)	リストを使った	2 (1,1)	Cover to Cover の ER part の本を読んだ
13 (10,3)	タイトル/表紙で決めた	1 (1,0)	色々な出版社の本を読んだ
13 (8,5)	図書館でじっくり探した/おすすめ	1 (1,0)	内容を知っている本を読んだ
7 (6,1)	本の説明/数行を読んだ	1 (1,0)	異なったジャンルの本を読んだ
4 (2,2)	簡単な/自分に合ったレベルの図書	1 (1,0)	好きな著者
3 (1,2)	映画化されている本を読んだ		

数(春・秋)\*の「数」は春学期と秋学期の合計の回答数を「(春・秋)」は春学期と秋学期のそれぞれの回答数を表す。

以上の結果は、上述の授業の第二パートである「おもしろい本の情報を得る時間」で得られた評価の高い本の様々な情報を学習者が参考にしたことを示している。特に、ペアで、読んできた本を紹介し合う活動を行ったが、多くの参加者にとって、この活動が良い図書の情報を得る機会になっていたことが窺える。また、教師のホームランブックやおすすめ図書の紹介を実際の図書を見せつつ行ったが、これも参考にされたことがわかった。さらに、教師が、先輩のおすすめ図書、クラスメートのホームランブック、Extensive Reading Foundation による学習者文学賞受賞作品をリスト化して配布したり、その中の幾つかの実物を見せたりしたが、これらが参加者にとって有効な情報源となったことが示唆された。

注目すべき点として、春学期と秋学期の違いである。「友人に聞いた」はその数に大きな変化はないが、「先生から聞いた」は秋学期に増加している。その逆に「タイトル/



表紙で決めた」は春学期が10であったが、秋学期は3へと減っている。本実践の指導を経験していく中で、参加者の本の選び方が変化していったことを示している。

次に、リサーチクエスションの(4)である「本実践の多読指導によりどのような効果を実感できるか」を探るために、参加者に対して行った学期ごとのふりかえりシートに含めた項目、「Extensive Reading を行うと Good things will happen. と言われています。今学期どのような良いことがおこりましたか」に対する参加者の記述による答えを「good thing」の種類ごとに表8にまとめた。尚、例えば「読書が楽しいと思え、知らないことを本から学んだ」という回答は、「読書が楽しくなった」と「教養/知識が増えた」にそれぞれ1を加えた。

表8 多読による good things

数(春・秋)*	good thing	数(春・秋)*	good thing
23 (14,9)	読むスピードが速くなった	8 (5,3)	教養が身についた/知識が増えた
20 (14,6)	読書が楽しくなった	7 (2,5)	語彙力/表現力が身についた
16 (9,7)	おもしろい本に出会えた	5 (1,4)	TOEIC に役立った
12 (5,7)	意欲が向上した/達成感を感じた	3 (1,2)	本の知識が増えた
12 (4,8)	読書に慣れた	2 (1,1)	ホームランブックに出会えた
11 (7,4)	読解力が向上した	2 (2,0)	他の英語の授業に役立った
9 (5,4)	読書が習慣化した/読書時間が増えた	5 (2,3)	その他

数(春・秋)\*の「数」は春学期と秋学期の合計の回答数を「(春・秋)」は春学期と秋学期のそれぞれの回答数を表す。

表8の「その他」の良いことの回答は、「英語の絵本の楽しさに気づけた」、「新しいジャンルの本に挑戦できた」、「読んだ内容を分かりやすく人に伝える力がついた」、「英字新聞を購読するようになった」、「海外ニュースを見るようになった」であった。

以上の結果は、本実践により、参加者たちは多読の様々な効果を実感したことを示し、Yamashita (2013) を支持するものであった。特に、多くの参加者が、英語を読むスピードや読解力の向上を感じ、英語の読書が楽しくなり、意欲が向上したことが窺われた。

次に、付随的な調査課題である、参加者たちは、本実践において「楽しみながら」、「レベルに合った」本による読書が行えたかについて、2014年度に学期終了時毎のふりかえりシートにおいて「本を楽しむことができたか」と「しっかり理解できる易しい本を読んだか」という質問項目にて、調査した。4件法による回答結果を示すと春学期の平均値がそれぞれ3.19と3.39、秋学期の平均値が3.42と3.39であった。尚、分布は、下の図1と2及び、図3と4の通りであった。

「本を楽しむことができたか」については、平均値が春学期の3.19から秋学期には3.42といずれも高く、かつ上昇している。分布図からも春学期は「3」が最も多かったのが秋学期には「4」が多くなっていることが示され、春・秋学期共に本を楽しむことができ、本実践の指導をより多く経験することにより、秋学期にはより多くの参加者が

英語の読書を楽しむことができるようになったことが示された。

続いて、レベルに合った図書を選べたかについては、「しっかり理解できる易しい本を読んだか」という質問に対して、上述の通り、春・秋学期共に、その平均値は3.39であった。図3と4の分布図からも春・秋学期のいずれも多く参加者がレベルに合った多読用図書を選択できていたことが明らかになった。

次に、付随的な調査課題の、本実践研究の指導により「レベルに合ったおもしろい図書を見つけることができるようになり、おもしろい図書の情報をクラスメートと共有できるようになるか」についての結果を示す。この課題には、2015年度の春・秋学期終了時のふりかえりシートに「読みやすくおもしろい本を見つけることが上手になったか」と「良い本の情報を他の人に積極的に伝えることができたか」の質問項目を設け、4件法で回答を求めた。その結果、春学期がそれぞれ3.27と2.96、秋学期が3.42と3.27となった。図5と6に「読みやすくおもしろい本を見つけることが上手になったか」、図7と8に「良い本の情報を他の人に積極的に伝えることができたか」の春学期と秋学期の回答の分布図を示す。

「読みやすくおもしろい本を見つけることが上手になったか」については、春学期に

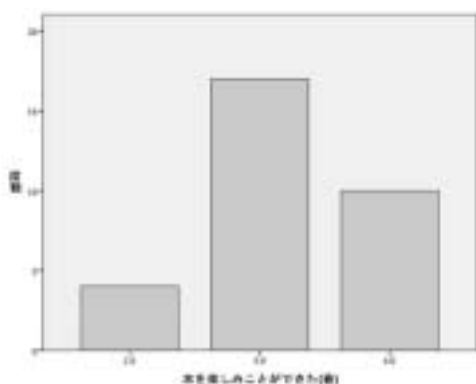


図1 分布図 (春)

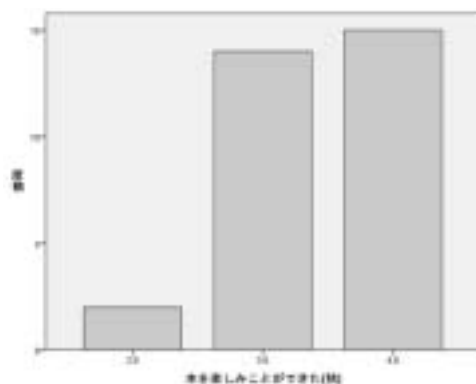


図2 分布図 (秋)

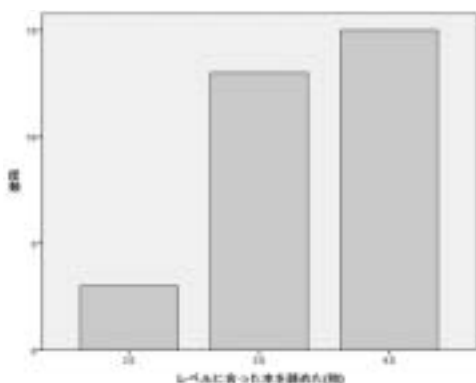


図3 分布図 (春)

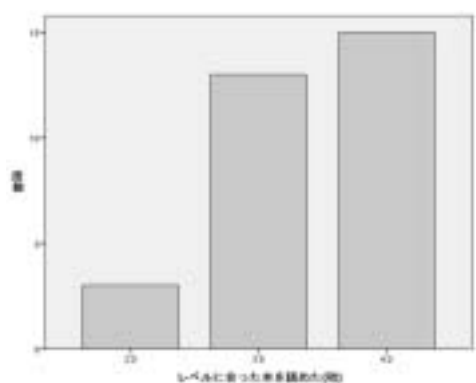


図4 分布図 (秋)

比べ、秋学期の方が「4」と回答した参加者が増え、本実践研究の経験が増すにつれて図書選びが上手になったと自覚できたことが窺えた。加えて、「良い本の情報を他の人に積極的に伝えることができたか」については、春学期に比べ、秋学期の方が「2」が減少し、「3」と「4」が増加していることから、本実践研究のペア活動を行うにつれて、本の情報をクラスメートに積極的に伝えられるようになったと感じられた参加者が増えたことが示された。

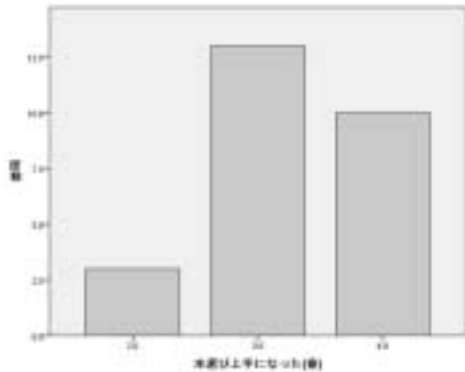


図5 分布図(春)

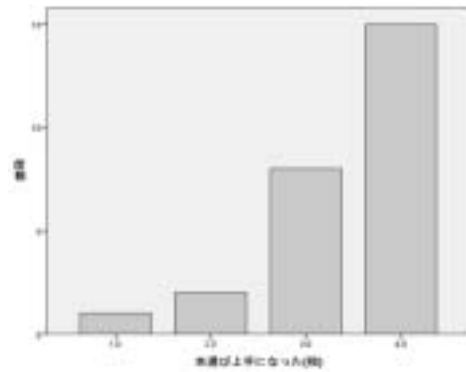


図6 分布図(秋)

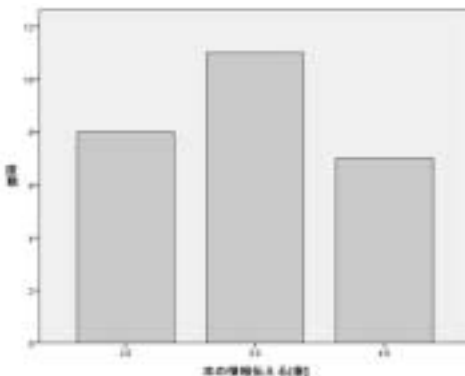


図7 分布図(春)

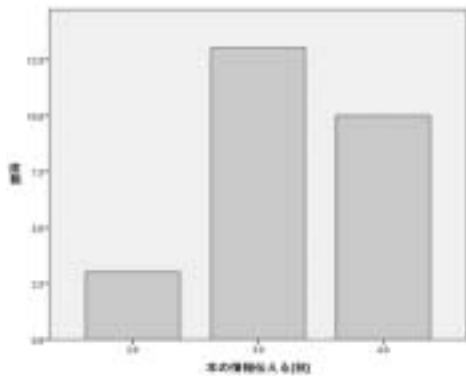


図8 分布図(秋)

以上の結果から、本実践研究によって、全体的に見て、参加者たちは、読みやすく、おもしろい本を見つけることが上手になり、良い本の情報をクラスメートに積極的に伝えられるようになったことが示され、個別には、より自律して多読が行える英語の読みに育ち、全体的には、より良い多読のコミュニティーに育ったことが示唆された。

## 5. まとめと今後の課題

本実践研究で示唆された事項は、以下の6点にまとめられる。

- (1) 多くの参加者が、「ホームランブックとの出会い；ホームランを打った時のような

気持ちになるとも肯定的な読書経験」を得ることができた。

- (2) 英語の多読においても、ホームランブックとの出会い；とても肯定的な読書経験が読書行動を促進させることが示唆された。
- (3) 多くの参加者は、クラスメートや教師からの情報を参考にして、多読図書（読む本）を選んだ。
- (4) 参加者は、多読により、多方面の効果を実感できた。特に、読むスピードが速くなったと感じた参加者が多く、情意面の効果を実感した参加者も多かった。
- (5) 多くの参加者は、本実践研究を通して、自分のレベルに合った多読を行ない、本を楽しむことができた。
- (6) 多くの参加者は、本実践研究を通して、自分のレベルに合ったおもしろい図書を見つけられるようになったと感じ、良い本についてクラスメートに積極的に伝えることができたと感じられた。

今後の課題として、第一に、上述の通り、本実践研究において、ホームランブックに出会えなかった参加者がいたことを踏まえ、指導法の改善が必要である。例えば、教師が学習者個々のレベルや興味の対象をさらに把握できるように努め、個別指導を行うなど、より決め細かな指導を行っていきたい。

第二に、本実践研究は、2年間の多読経験を有する、経験豊富で、英語を専攻する英語学習に対する意欲の高い参加者を対象に行われたため、多くの参加者が多読に意欲的に取り組み、その結果、ホームランブックに多く出会い、多読の効果を実感できたのかもしれない。よって、異なる学習者集団に対する実践研究が必要である。

第三に、本実践の参加者たちの多くが、多読を行うことによって、外国語（英語）の読書においても、とても肯定的な読書経験を得られたことが示唆されたが、ホームランブックと出会うことで学習者がどう感じ、多読に対する動機づけがどのように高められるのかについて、さらに詳しく調査したい。そのことが多読の利点を示すことに寄与し、多読がより注目されることにつながる可能性があると思われる。

## 付記

本稿は、全国英語教育学会第42回埼玉研究大会において発表した「多読行動を促進する指導 ホームランブックというキーワードを用いて」（山中・種村，2016）に、加筆修正を加え、発展させたものである。

## 引用文献

Day, R.R. & Bamford, J. (1998). *Extensive Reading in the Second Language Classroom*. Cambridge: Cambridge University Press.

Day, R.R. & Yamanaka, J. (2007). *Cover to Cover 1*, Oxford: Oxford University Press.


深田桃代 (2009) 「自律的英文多読の継続を支える要因 100万語達成者へのアンケート分析をもとに」『中部地区英語教育学会紀要』第38号, 205-212.

- 古川昭夫・神田みなみ (2010) 『目指せ 1000 万語英語多読完全ブックガイド』 東京：コスモピア
- 門田修平・野呂忠司 (2004) 『英語リーディングの認知メカニズム』 東京：くろしお出版
- Kim, J. & Krashen, S. (2000). Another Home Run. *California English* 6 (2), 25. 2000.
- Krashen, S.D. (1985). *The Input Hypothesis: Issues and Implications*, New York: Longman
- Mason, B. (2009). Comprehension is the key to successful English language education reform, *Shitennoji University bulletin* (48), 245-270.
- Nuttall, C. (2005). *Teaching Reading Skills in a Foreign Language*. London: Macmillan.
- Sprecken, Von.D., Kim, J. & Krashen, S. (2000). The Home Run Book: Can One Positive Reading Experience Create a Reader? *California School Library Journal* 23 (2), 8-9.
- 高瀬敦子 (2010) 『英語多読・多聴指導マニュアル』 東京：大修館書店
- Trelease (2001). *The Read Aloud Handbook*. New York: Penguin.
- 山下淳子 (2004) 「英語と日本語の読解における読書習慣と情意傾向：多読指導に向けての基礎的研究」 『日本学術振興会科学研究費報告書 (基盤研究 C/2)』
- Yamashita, J. (2013). Effects of Extensive reading on reading attitudes in a foreign language. *Reading in a Foreign Language*, 25, 2, 248-263.



資料 1

BOOK REPORT										
Your Name:	_____	Class:	_____	Date handed in:	_____					
Title of Book:	_____									
Publisher:	Cambridge / Macmillan / Oxford / Penguin / Other ( _____ )	Level:	_____							
# of pages:	_____	# of words:	_____							
Motivation Level (before reading)	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
A. Why did you choose this book? (You can circle more than one)										
Title	Cover design	Illustration	Level	Blurb	Friend	Teacher	Author	Other ( _____ )		
B. What is this book about? (Write either in English or Japanese)										
C. How did you like the book? (circle one)										
5	Home run!	4	Great!	3	Good	2	OK	(1 Boring / Stupid)		
D. Write your feelings about the book (either in English or Japanese).										
E. New vocabulary / useful expressions / interesting sentences										
Motivation Level (after reading)	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
Why?										

 IN-CLASS BOOK REPORT										
Your Name:	_____	Class:	_____	Date handed in:	_____					
Title of Book:	_____									
Publisher: or Series	_____									
Level:	_____									
# of pages:	_____	# of words:	_____							
Motivation Level (before reading)	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
A. What is this book about? (Write either in English or Japanese)										
B. How did you like the book? (circle one)										
5	Home run!	4	Great!	3	Good	2	OK	(1 Boring / Stupid)		
C. Write your feelings about the book (either in English or Japanese).										
D. New vocabulary / useful expressions / interesting sentences										
Motivation Level (after reading)	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
Why?										

資料2

<b>ER Weekly Report</b>				
Class: ER IIIA Name:				
(Book report 記録用紙と同じ数字)				
Week	Books 全合計	Pages 全合計	Words 全合計	一週間の報告（よい本に出会ったか、モディペーション、調子など）よい変化、気づき、つぶやき、おすすめ本など
1 /				
2 /				
3 /				
4 /				
5 /				
6 /				
7 /				
8 /				
9 /				
10 /				
11 /				
12 /				
13 /				
14 /				
15 /				

資料3





☆この用紙は各自保管し学期末に提出！☆

Class: \_\_\_\_\_ Name: \_\_\_\_\_

No	月 / 日	Title of Book	Publisher	Level	How did you like it?	# of pages	# of words	Motivation Pre / Post	Short Comments
					H 4 3 2 1	-----			
					H 4 3 2 1	-----			
					H 4 3 2 1	-----			
					H 4 3 2 1	-----			
					H 4 3 2 1	-----			
					H 4 3 2 1	-----			
					H 4 3 2 1	-----			
					H 4 3 2 1	-----			
					H 4 3 2 1	-----			
					H 4 3 2 1	-----			

5 Home run!    4 Great!    3 Good    2 OK    (1 Boring / Stupid)

10冊読んだら「裏のページ」へ